

宮城県労連第31回定期大会・30周年レセプション

みやぎの労働者と共に30年

田嶋玄一副委員長

9月7日、宮城県労働組合総連合（宮城県労連）の第31回大会が、県内の15単組から50名余りの代議員が出席して、フォレスト仙台で行われました。

大会は高橋正行議長のあいさつで始まり、午前中に2018年度の活動総括と2019年度の活動方針案及び予算決算が提案され、午後討議を行いました。

ここでは加盟各単組からそれぞれの取り組みについて報告がなされ、東北大職組も雇い

満場一致で採択



止め問題の現状について、団の歌声は力強く、来て簡単な報告を行いました。若い世代の報告が多かったこともあり（話ぐどくならない）、討議は予定よりも早く進行し、全議案を満場一致で採択して終了しました。

続いて同じ会場で宮城県労連結成30周年を祝うレセプションが開催されました。こちらは各単組からの組合員と共闘団体、弁護士、歴代議長などの来賓を含め、100名を超える参加者を得て盛会でした。旧国鉄労働者で作るD51合唱



東北大学の先輩もたくさん参加したレセプション

この間のさまざまな労働争議の思い出が語られ、スライ

第59回宮城県母親大会in石巻

母親大会の歴史と存在感感じ

雇い止め署名159筆集めた

病院支部 千葉まさ子さん



会場に大漁旗がずらりと

9月8日(日) 県母親大会が石巻市立蛇田中学校を会場に開催され、東北大学から6名が参加し全体では1,135名の参加がありました。

被災地を巡る見学や体験、子育て、安心して暮らせる社会、平和の5分野にわたる24の分科会が用意されてい

動的で子どもたちのエネルギーが満ちあふれていました。

また記念講演は、弁護士の白神優理子さんによる「日本国憲法は希望—子どもたちへ手渡すバトン」

ました。私は多々良哲氏を助言者に迎えた「原発ゼロをめざして」という分科会に参加しました。女川原発2号機再稼働の是非に関する県民投票運動についての報告でした。11万超の署名を集めて終わりではなく、2019年末から2020年春にかけて再びこの再稼働問題が焦点となるため、もう一度大きなうねりを巻き起こそうと呼びかけていました。

母親大会らしくにぎやかな中、当職組3人は開会前と昼休みに雇止め問題の署名集めに取り組みました。「子どもが東北大に勤めていた」とか「ひどい話だよ」と次々に署名してくださいました。「後日送るから署名用紙頂戴」と数名の方から声がかかりました。短時間の取り組みでしたが159筆集めることができました。

私は大会初参加でしたが、後援が自治体やPTA、商工会、新聞社、放送局などと幅広く母親大会の歴史と存在を感じ、力をもらって帰ってきました。